

武蔵国分寺関連年表

国家仏教から国分寺建立へ

大化元年（645）の大化の改新の後、仏教興隆の詔によって、国家支配体制の中心に仏教が置かれ、大寺を拠点とした国家仏教への道が本格化します。

天智2年（663）、朝鮮半島での日本と唐・新羅連合の戦い（白村江の戦い）や、弘文元年（672）の国内での皇位継承争い（壬申の乱）を経て、時の天武天皇は、国を治めるため律令国家体制を成立させました。その構造は、国府・郡衙による直接支配機構の整備と、仏教の強化による支配観念（イデオロギ-）の確立です。その後、寺の無税化や、各寺に仏像・經典の設置と礼拝供養を促進させるなど、様々な仏教政策が行われました。大宝元年（701）には「僧尼令」（養老令第7編）が布かれ、国家仏教の法的整備が整います。

そして、和銅3年（710）の平城京遷都によって仏教都市の造営が開始され、霊亀2年（716）には寺院の乱立を正し、荒廃した寺を修造させる「寺院併合令」が出されます。この政策は天平7年（735）まで続き、次の国分寺構想の基盤となりました。

日本列島は、北海道や東北北部、沖縄地方などを除いて、天皇中心の集権国家体制の中にあり、その主要な役割を果たしていたのが仏教だったのです。そして天平13年（741）、聖武天皇によって国分寺建立の詔が發布され、仏教による鎮護国家体制の総仕上げが行われます。（下線は年表に記載のないできごと）

時代	年号	西暦	おもな出来事（太字は武蔵国の出来事）
飛鳥	大化元	645	●大化改新 東国に国司を派遣
	天武14	685	●この頃、五畿七道がほぼ成立し、武蔵国は東山道に属す
	持統8	694	○金光明経を諸国に領ち、毎年正月に読経させる ●藤原京に遷都 ●この頃、武蔵国の国府が現在の府中市内におかれる
	大宝元	701	●大宝律令が完成 ●藤原安宿媛（光明子）誕生〔母 橘三千代〕 ●首皇子（聖武天皇）誕生〔母 藤原宮子〕
	和銅元	708	●はじめて銀・銅銭（和同開珎）をつくる
奈良	和銅3	710	●平城京に遷都
	和銅6	713	●諸国に「風土記」の編纂を命じる
	霊亀2	716	●安宿媛（光明子）が皇太子妃となる ●武蔵国に高麗郡をおく
	養老元	717	○僧尼令に基づき僧尼の行動を厳しく規制する
	養老2	718	●藤原不比等らが養老律令を編纂する
	養老4	720	●藤原不比等亡くなる
	神亀元	724	●聖武天皇即位
	神亀4	727	●光明子に皇太子誕生する
	神亀5	728	●皇太子死亡 ○国家平安のため、新たに金光明経十巻を諸国に領ち、転読させる
	天平元	729	○長屋王、謀反の疑いをかけられ自殺する（長屋王の変） ●光明子立后
	天平6	734	●大地震おこり、被害甚大となる
	天平7	735	●疫病（天然痘）が流行・飢饉おこる
	天平8	736	●不作・疫病（天然痘）が流行・飢饉おこる
	天平9	737	○国ごとに釈迦仏像一尊・挟侍菩薩二尊を造り、大般若経一部六百巻を写させる ●疫病（天然痘）が大流行し、多数の死者がでる ●藤原四兄弟（房前・麻呂・宇合・武智麻呂）、天然痘のために相次いで死亡する
	天平10	738	○国家隆平のため、諸国に最勝王経を講読させる
奈良	天平12	740	○国ごとに法華経十部を写し、七重塔を建てさせる ○藤原広嗣の乱 ●恭仁京に遷都
	天平13	741	●故藤原不比等の封戸三千戸を国分寺へ施入 ○聖武天皇が国分寺建立の詔を發布する
	天平15	743	○廬舎那大仏鑄造の詔を發布 ●懸田永年私財法を制定
	天平16	744	●難波宮に遷都 ○国ごとに正税四万束を割き、毎年出挙して国分寺造営の費用に充てる
	天平17	745	●平城京へ都を戻す
	天平19	747	○東大寺大仏殿の建設を始める ○国分寺造営について国司の怠情を責め、郡司を専任として重用し、三年以内の完了を命じる ○僧寺に水田九十町、尼寺に同四十町を追加施入する ○百姓の造塔を請願する者はこれを許す
	天平感宝元	749	○諸寺の墾田地の限度を定め、諸国国分寺千町、尼寺四百町とする ○東大寺廬舎那仏成就する
	天平勝宝3	751	○東大寺大仏殿が完成する
	天平勝宝4	752	○東大寺大仏開眼法会がおこなわれる ●従四位上平群朝臣広成を武蔵守となす
	天平勝宝8	756	●聖武太上天皇崩御 ○聖武太上天皇一周忌齋会のため、使を諸国に遣わし、国分寺の丈六仏像の造仏、さらに造仏殿、造塔を促す ●従四位高麗朝臣福信、武蔵守を兼任する
	天平宝字元	757	●この頃、武蔵国分寺の主要な建物が完成する
	天平宝字2	758	○国分二寺に金剛般若経を安置し、金光明経にそえ転読させる ●武蔵国に新羅郡をおく
	天平宝字3	759	●従五位下三島真人廬原を武蔵介となす ○二寺の図を天下諸国に頒ち下す
	天平宝字4	760	●光明皇太后崩御

武蔵国分寺の衰退と焼失

華やかな天平文化に彩られた奈良時代以降、平安時代も貴族が政権を掌握していましたが、律令体制はしだいに形骸化していきます。摂関政治・院政に至る政治変動や、平将門と藤原純友の乱に代表される国内情勢不安、関東をはじめとした地方武士の台頭などの社会情勢の変動期にあって、諸国の国分寺は徐々に衰退していきます。

武蔵国分寺の場合は、天平神護2年（766）の諸国国分寺の塔・金堂の修理命令（『続日本紀』）、承和2年（835）の七重塔焼失と承和12年（845）の焼失した塔の再建許可（『続日本後紀』）、元慶2年（878）の関東大震災による被害（『日本三代実録』）などが確認できます。その後も天慶2年（939）、長保2年（1000）に、諸国国分寺の修造が命じられ、武蔵国の場合は、さらに治安3年（1023）にも修造を命じられています。

修造は、源頼朝、鎌倉幕府によっても命じられました。度重なる修造命令は、国分寺が徐々に衰退していったことを物語っているのでしょう。

史跡武蔵国分寺跡のこれまでの発掘調査によって、武蔵国分寺は、寺を区画する僧寺伽藍地区画溝の埋没時期や、竪穴住居の寺院内外の進出状況から、11世紀はじめころから衰退に向かったと考えられます。

その後、武蔵国分寺は元弘3年（1333）、新田義貞と鎌倉幕府方の分倍河原の合戦の戦乱に巻き込まれて焼失し、建武2年（1335）に新田義貞の寄進によって、薬師堂が僧寺の金堂跡付近に建立され、武蔵国分寺が再興されたと伝えられています（現国分寺（真言宗豊山派）所蔵『医王山縁起』）。

時代	年号	西暦	おもな出来事（太字は武蔵国の出来事）	時代	年号	西暦	おもな出来事（太字は武蔵国の出来事）
奈良	天平宝字 5	761	○皇太后一周忌に阿弥陀浄土院で齋会がおこなわれる ○諸国国分尼寺に阿弥陀仏丈六像一体・挟侍菩薩像を二体造らせる ● 従五位下高麗朝臣大山を武蔵介となす	平安	延長 5	927	○延喜式完成（主税寮に、 武蔵国正税・公廩各四十万束、国分寺料五万束の記載 ）
	天平宝字 8	764	○藤原仲麻呂の乱 ○国郡司の国分寺家収納の財物犯用をいましめる ● 武蔵守従四位下石川朝臣名人が亡くなる ● 正五位上石川朝臣人成を武蔵守となす		天慶 2	939	○平将門の乱 ○諸国国分二寺の堂塔・仏像などに大破、汚損するもの多く、官符を下し修理させる ○兵乱と炎旱のための祈雨を諸国の明神・国分寺・定額寺に祈祷読経させる
	天平神護 2	766	○諸国に朽損、傾落した国分寺の塔・金堂の修理を命じる ● 従五位下巨勢朝臣公成を武蔵守となす		康保 4	967	●藤原実頼、関白となる ●延喜式施行
	宝亀 2	771	● 武蔵国が東山道より東海道に転属（所属替え）する		治安 3	1023	○ 武蔵国分寺を修造する
	延暦 2	783	○国分寺僧の欠員の補充には厳選を命じる		長元 3	1030	○疫疾除去のため、諸国国分寺に丈六観音像一体・観世音経百巻を安置させる
	延暦 3	784	●長岡京に遷都		文治 2	1186	○源頼朝、諸国の総社・国分二寺の修造を命じる ●この頃（平安時代末期～鎌倉時代初期）、木造薬師如来坐像が製作される
	延暦 13	794	●平安京に遷都	鎌倉	建久 3	1192	●源頼朝が鎌倉に幕府を開く
平安	弘仁 9	818	● 関東で大地震おこり、相模・武蔵・下総・常陸・上野・下野国等で被災、特に上野国で被害甚大		建久 5	1194	○源頼朝が近国の一宮・国分寺の修造を命じる
	承和 2	835	○ 武蔵国分寺七重塔、神火（落雷）で焼失する	南北朝	元弘 3	1333	●鎌倉幕府滅亡する ○ 分倍河原の合戦の戦乱に巻き込まれ、武蔵国分寺が焼失する
	承和 4	837	○疫病流行により諸国の国分寺に昼は金剛般若経を読ませ、夜は薬師悔過を行わせる		建武元	1334	○ 新田義貞が武蔵国分寺に黄金三百両・伽羅二百目などを寄進する
	承和 6	839	○ 相模・武蔵等関東七国（国分寺）に一切経一部を写させる		建武 2	1335	○ 新田義貞の寄進により薬師堂が建立され、武蔵国分寺が再興される
	承和 12	845	○ 武蔵国の前男衾郡大領外従八位上壬生吉志福正が焼失した武蔵国分寺七重塔の再建を願い出て許可される	室町	○この頃（中世）、鎌倉街道に面して恋ヶ窪廃寺や伝祥応寺があり、板碑（板石塔婆）が多数造立される		
	承和 14	847	○ 武蔵国分寺中院の僧最安が一切経を書写する（法隆寺所蔵大菩薩経巻十三奥書）	戦国 安土 桃山	弘治 2	1556	○ 国分寺伝来の木造書見台が作られる（「弘治二年八月十六日 武蔵國最勝院本堂用」の墨書銘）
	仁寿 3	853	○災害鎮静のため諸国の国分寺・国分尼寺に陰陽書法を行わせる ○ 武蔵・信濃両国（国分寺）に一切経一部を写させる		慶長 5	1600	○関ヶ原の戦い
	貞観元	859	○諸国に命じ諸寺の堂塔を修理させる	江戸	○ 国分寺薬師堂が現在の場所に建て替えられる ○この頃（宝暦年間：1751～63）、現在の国分寺仁王門が建造される		
	貞観 13	871	○諸国国分寺に一万三千画仏像一鋪（広六幅、高一丈六尺）を安置させる		宝暦 6	1756	
	貞観 15	873	○陸奥国、蛭夷平定のため武蔵国の例に準じ、五大菩薩像を造り国分寺を安置する		享保～天保年間	1716～1843	●『 武蔵野地名考 』、『 調布日記 』、『 武蔵名勝図会 』、『 新編武蔵風土記稿 』、『 江戸名所図会 』、『 嘉陵紀行 』などの地誌に武蔵国分寺跡や古瓦が紹介される
	元慶 2	878	● 関東に大地震おこり、とくに相模・武蔵の被害甚大				

● 一般 ○仏事 ◎軍政